

ブルガリア遠征レポート (World Cup)

東亮汰 (総本部)

2025年7月、ブルガリア・ブルガス市にて「World Kudo Cup 2025」が開催されました。今大会には、戦争や査証の問題により一部の国が参加できなかったものの、25カ国から約280名の選手が出場し、日本で行われる世界選手権大会を除いては過去最大規模の国際大会となりました。会場（アリーナブルガス）もこれまでで最大の規模であり、ブルガリア空道連盟およびブルガス市の協力のもと、円滑な大会運営が実現されました。

日本からは18階級に23名の選手が出場し、優勝12名、準優勝3名、三位4名の計19名が入賞しました。国別ランキングでは日本が第1位を獲得し、空道発祥の国として非常に誇らしい成績を収めることができました。選手団、審判団、保護者を含めた総勢52名での渡航となり、事前準備から現地調整まで多岐にわたる対応が求められました。

私は本大会において日本代表団副団長として、全体の行程管理、引率、選手サポートを担当いたしました。副団長として至らぬところも多々ありましたが、関係者の皆様のご協力のおかげで、大きな混乱なく遠征を終えることができました。

また、審判員として大会運営にも従事し、各国選手の技術レベルの向上を実感するとともに、ミスもあまりなく公平に裁くことができました。ワールドカップという舞台で主審を務めさせていただいたことに、心より感謝申し上げます。

今後は、欧州選手権、アジア・オセアニア選手権、欧州ジュニア選手権、ユーラシアカップなどが予定されており、2027年11月には次回の世界選手権が開催される予定です。今回の遠征を通じて得た経験や気づきを、今後の国際大会の準備や運営体制の改善に活かしてまいります。

出場した選手の皆様へ

今回、日本代表としてこの舞台に立てたことは、決して皆さん一人ひとりの力だけで成し得たものではありません。日頃からご指導くださっている先生方や指導員の皆様、練習を共にしてきた仲間たち、そして遠征を支えてくださった保護者の皆様の存在があってこそ、皆さんはこの場に立つことができました。また、これほど大規模な国際大会が開催されるまでには、創始者である東孝初代塾長をはじめ、大道塾および空道の普及に尽力されてきた諸先輩方の長年の活動がありました。その積み重ねの上に、今の舞台があることを、どうか忘れないでください。

そして何よりも、結果だけがすべてではありません。ワールドカップに向けて積み重ねてきた日々の努力、今回の遠征で得た経験、それらを今後どのように活かしていくかが本当に大切です。この経験を後世に伝え、次世代の育成に繋げていくこと。自分自身の糧として成長に結びつけていくこと。そして、この経験を自らの成長の礎とし、これからの人生に活かして行ってください。本当にお疲れ様でした。

今回の遠征では、選手・関係者の皆様と共に貴重な経験を積むことができました。

最後に、ご同行いただいた皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。押忍。

日本選手団



審判団

